

TOUZA

Vol.4

現在、東西舞鶴で取り組んでいる「東西まちづくり公共施設ワークショップ」の様子をお伝えする広報誌です！

協力：特定非営利法人リデザインマネジメント研究所

発行：舞鶴市財務部資産マネジメント推進課

企画・編集：福知山公立大学地域経営学部杉岡ゼミ

1 施設見学＆振り返り

第4回の会場は文化公園体育館でした。ワークの前に施設見学を行い、山の斜面に建設されたこと、部活動などでよく使われていることなどの特徴を確認しました。その後、前回の各班の発表を振り返り、ワークをスタートしました。

【ワークショップのゴール】

ゴール1：これまで考えてきたことを公共施設へ落とし込みながら提案を磨き上げる

ゴール2：自分でも関わるようなことを考え、未来への行動の準備をする

2 ワークショップ

ワークショップでは3つの作業を行いました

1. 公共施設の「未来の姿」のためアイデアを考えてみよう

前回の「施設に対する工夫」に追加して公共施設を“負”動産にしない、“富”動産へのアイデアを考えました。

2. 施設同士のつながりを考えてみよう

役割分担を考えたりイベント・情報の連携をしたりなどのつながり方を考えました。

3. 自分でもできそうな公共施設との関わり方を宣言しよう

これまで考えてきた施設への提案をもとに、自分でもできそうな公共施設との関わり方を宣言しました。

「舞鶴市公共施設マネジメントシンポジウム2026」を開催します。

舞鶴市の公共施設の現状を知っていただき、未来の公共施設の「カタチ」を一緒に考える「舞鶴市公共施設マネジメントシンポジウム 2026」を年明けに開催いたします。このシンポジウムでは、東西公共施設まちづくりワークショップについても紹介する予定です。開催日時や場所、参加方法などの詳細につきましては、改めて舞鶴市ホームページや市広報誌等で案内させていただきますので、ぜひ皆様ご参加ください。

だより

[第4回]

会場：文化公園体育館

日時：2025年11月22日(土)

参加者：22人
(うちWS参加者18人)



3 全体共有

1班

子供の意見を聞く施設

- ・子供の主体性を大事に、子供の興味を探るためのワークショップを実施する。
- ・まなびあむで、一年を通して開催する。
- ・使わなくなった部屋は貸し事務室にする。



2班

気軽に相談できる窓口

- ・市役所に中心窓口、空き家、小中学校、図書館に窓口を置く。
- ・各窓口はゆるく、自由な雰囲気をつくり気軽に相談できるようにする。
- ・窓口の機能は“建物”がなくても“人”が担うこともできる。極端な話、建物は要らない！(かも)



3班

公共施設を一度リセット！

- ・一つの大きな建物を「空っぽ」にしてもう一度市民のニーズを考える。
- ・まなびあむを例に、西総合会館の活用方法を考える。

→ 完成した模造紙は、こちらの二次元コードからご確認いただけます。



4 講評

発表の後、アドバイザーからの講評がありました。

堤先生(前橋工科大学准教授)

ワークショップはみんなで目的のために作業する場であり、形式はなんでもよい。常識にとらわれず、いろいろな特徴ある拠点を作ってほしい。

杉岡先生(福知山公立大学准教授)

行政のするべきことは市民に情報を共有する場を設けること。話し合いではしっかり揉めて、しっかり収めることが大切。迷ったならば原点回帰を。



お問い合わせ[資産マネジメント推進課 0773-66-1045]→